

卵子凍結に関する説明書

下記項目をお読みいただき、承諾書に☑とご署名をお願いいたします。

妊娠する力は、年齢とともに卵子の質が老化し低下するため減少していき、妊娠しづらくなっていきます。

また、DNA の染色体の割合も増えてくるため、染色体異常の卵子が増えたり、流産率が高くなります。

一般では女性は 35 歳を過ぎると妊娠率が顕著に落ちていくとされています。

① 卵子凍結とは

現在の年齢での卵子を凍結保存し、将来妊娠する可能性を高めることを目的に行います。

妊娠を希望したときに凍結してある卵子を融解し、不妊治療における生殖補助医療を用いて受精、胚移植を目指す医療技術となります。

仕事のキャリアや晩婚化により、「今は妊娠できないけれど、いつかは妊娠したい」という希望がある場合、妊娠の可能性を残す方法として、注目されています。

② 卵子凍結の対象となる方

・18～39 歳の方

（一般社団法人日本生殖医学会倫理委員会が発表している「社会的適応による未受精卵あるいは卵巣組織の凍結・保存のガイドライン」より、採卵時の年齢が 40 歳以上は推奨できないとされています。）

・今は仕事を優先したい方

・家庭の事情（介護など）で今すぐの妊娠や出産が難しい方

・将来結婚して子供が欲しいと思っている方

・今のうちに質のいい卵子を凍結保存し、将来に備えていきたいと考えている方

③ 以下に該当する方の卵子凍結は行っておりません。

18 歳未満の方

学生の方

医学的適応による（がん治療などに伴う）方

B 型肝炎・C 型肝炎・梅毒・HIV に感染している方

（このあと検査を行う予定です。そちらで感染が発覚した場合も卵子凍結は行えません。）

④ 卵子凍結の費用

卵子凍結は保険適用外となるため、卵子凍結を目的として行う治療費(診察、検査、処置、使用薬剤等)はすべて自費になります。

費用は期日までに必ずお支払いいただきますようお願いいたします。

お支払いいただけない場合、いかなる場合も治療を中断させていただきます。

卵子凍結に関する助成制度につきましては、お住まいの県、事業、お勤め先などへ直接お問い合わせください。

領収書は、当院での治療が終了するまで捨てずに保管お願いいたします。

やむを得ず、治療が中断になる場合等精算の際に必要となります。

(領収書がない場合、返金は致しかねますのでご注意ください。)

⑤ 卵子凍結の流れ

卵子採取(採卵術)は、生殖補助医療(ART 治療)と同じ流れで行います。

治療内容、通院日や採卵日など、詳しくは別紙をご確認ください。

⑥ 凍結卵子の保管

卵子凍結は採卵した卵子が全て凍結できるわけではありません。

成熟卵とよばれる受精可能な状態のもののみ凍結することができます。

未熟卵や変性卵のような、もともと受精できない卵子については凍結できかねます。

卵子凍結の処置は当院にて行い、外部業者(Grace Bank)へ移管いたします。

移管までの間、当院にて一時保管を行います。

採卵日翌日より一ヶ月以内に凍結費用をお支払いいただけない場合、一時保管している凍結卵子は Grace Bank へは移管せず当院にて破棄いたします。

移管前の一時保管中に不慮の事故(火災や地震などの天災)により凍結卵子に破損を生じた場合、当院は一切の責任を負いかねます。

その後の更新、出庫、破棄などは、すべて Grace Bank へ委託しております。

移管後の状況に関しましてお答えしかねますので、ご不明点などございましたら、Grace Bank へお問い合わせください。

⑦ 凍結卵子を使用した治療

将来妊娠を希望した際、生殖補助医療を用いて治療を行います。

治療は Grace Bank と提携している医療機関のみ対象です。

凍結卵子を使用した場合、融解後の受精方法は体外受精ではなく顕微授精のみ適応となります。

・凍結卵子を使用する治療はすべて保険適用外(自費診療)となります。

⑧ 融解後の卵子の一般的な成績(35歳まで)

融解後の卵子生存率 90～97%

受精率 71～79%

妊娠率 36～61%

⑨ 卵子凍結・今後の治療に関するリスク

- ・将来の妊娠の可能性を広げるものであり、妊娠を確約するものではありません。
- ・採卵に向けて排卵誘発剤を使用しますが、それにより卵巣過剰刺激症候群(OHSS)や、採卵時痛みや腹腔内出血・炎症、麻酔による影響などが考えられます。
- ・卵胞を刺しても卵子が採取できない場合や、卵子が未熟や変性卵の場合は、凍結ができない場合もあります。
- ・将来、妊娠を望まれた時、凍結卵子を融解した際に卵子の回収が不可能である場合や卵子の変性が起きてしまった場合は顕微授精を行うことができなくなります。
- ・凍結融解により組織破壊を起しやすいため、融解時の卵子の質が低下することがあります。卵子の質の低下は、実際の治療を行う際に、受精や受精率に大きく影響し、顕微授精を行っても受精卵が得られない、または胚が順調に发育しない場合は胚移植が行えない可能性もあります。
- ・卵子凍結によって卵子の質は保存できていても、女性の年齢が上がることで、着床不全や子宮筋腫など妊娠しづらい環境になること、妊娠高血圧症や妊娠糖尿病など出産におけるリスクが高まることが考えられます。
- ・凍結卵子を用いた治療を当院にて希望される場合、ケースごとに卵子融解をし、持ち込まれたすべての凍結卵子に顕微授精を行います。

治療方針により、分割期や胚盤胞期まで发育した胚を凍結し、子宮内膜を整え融解胚移植を行います。

※ 当説明書は当院での治療が終了するまで大切に保管をお願いいたします。

承 諾 書

※別紙【卵子凍結に関する説明書】をよくお読みいただき、承諾の際□に✓をお願いいたします。

- ①卵子凍結とは
- ②卵子凍結の対象となる方
- ③以下に該当する方の卵子凍結は行っておりません。
- ↳該当する項目はなかった。
- ④卵子凍結の費用(領収書の取り扱いについて)
- ⑤卵子凍結の流れ
- ⑥凍結卵子の保管
- ⑦凍結卵子を使用した治療
- ⑧融解後の卵子の一般的な成績
- ⑨卵子凍結・今後の治療に関するリスク

馬車道レディースクリニック院長殿

私は、別紙【卵子凍結に関する説明書】の項目すべて十分に理解しましたので、承諾いたします。
Grace Bankにて卵子凍結保管をするにあたり、当院で採卵に向けて治療することを希望いたします。

年 月 日

氏名 _____